いんたびゅう　～北九州出身の先輩に聞く～

復興支援 ～「縁」から「絆」へ～

大嶋（おおしま） 一馬（かずま）さん

［プロフィール］
- 北九州市立大里南小学校卒業
- 福岡教育大学附属小倉中学校卒業
- 福岡県立小倉高等学校卒業
- 広島大学法学部第二部卒業
- 地元の企業に13年勤務

大嶋さんがロシナンテスで活動されるようになった経緯を教えて下さい。

40歳の時に会社を辞め、主夫のような生活をしていました。震災はテレビや新聞で見て知っていましたが、他人事というか、どこか遠い話のようで、これから東北は大変だなというくらいの認識でした。昨年3月16日の午前中に、高校時のラグビー部の先輩のNPO法人ロシナンテス理事長の川原尚行から電話があり、被災地での支援活動の人手が足りないので来てくれないかとの要請がありました。その日のうちに、車で北九州を発ち3月18日の夕方に宮城県名取市に到着しました。そこで、見た被災地や被災者が寝泊まりする避難所等を目の当たりにして、私の中の何かのスイッチが入ったようで、積極的に支援活動に関わるようになりました。

ロシナンテスが東北で復興支援活動を行うようになった経緯を教えてください。

ロシナンテスのもともとの活動であるスーダン共和国の支援活動の一環としての交流事業で、理事長川原尚行がスーダン人医療関係者と東京を周っている時に東日本大震災が発生しました。怖がるスーダン人を急きょ帰国させ、川原は東京の知り合いの病院から救急車を拝借し、自ら運転して被災地に向かいました。縁あって、名取市に拠点を構え、仙南地区（仙台の南の地区）／名取市・岩沼市・亘理町・山元町）で支援活動をするようになりました。

東北の復興支援では、どのようなことに取り組んでこられたのですか？　また、今後も取り組んでいく必要のあることは何ですか。

医療支援（避難所の巡回診療）、全国からボランティア（約700人）を募っての がれき撤去作業・仮設住宅の集会所において小中学生を対象にした学習支援塾（寺子屋「亘理（わたり）」）の運営・被災者による被災者のための情報新聞「関上復興だより」（毎月1回発行）の発行サポート・震災の風化を防ぐための企画「東北を歩こう！関上～震災を忘れない～」の実施・地元他団体との協働による活動（イベントの企画・運営・実施等への参画等）・被災地外から来訪する団体等のアテンド・講演活動・その他被災住民からの要望があれば出来る限りこたえるように心がけています。

これから……

仮設住宅や民間借り上げ住宅での生活が長期にわたることから、主に高齢者の引きこもりや心身の健康に悪影響が出てきています。農業の復興にあわせて、被災高齢者の方々と農作業を通じ交流を深めることにより、健康維持・健康増進をはかることが必要とされています。この数か月、準備を進めてきましたが、いよいよ今冬から本格的に開始となります。

また、これまでもやってきましたが震災の風化を防ぐ活動も継続したいと思っています。この地を訪れる方々から、来てよかった、自分自身の目で見ることができてよかった、と言われます。もともっと多くの方に、自身の目で確かめていただきたいです。あるいは、こちらから出向いていく、講演活動にも力を入れてきたいと考えています。

東北の復興支援で、辛かったこと、また活動を続けてきて良かったと思ったことは何ですか。

辛かったことはありません。物ではなく人と向き合う活動ですから、事が思うように運ばないこともありますが、目標・目的に向かって真っ当に地道にひたすら努力を続ければ、きっといい結果が得られるという経験をこの地で多くし、素晴らしい仲間にも恵まれていますので辛いことはありません。

よかったと思う点は、人から「ありがとう」と感謝されることです。それまでは、少し斜に構えていたのか、人からの感謝の意を素直に受け止めることができなかったのですが、今は感謝されると素直に喜べるようになりました。また、この活動を通じ多くの方と触れ合う機会に恵まれ、仲間と呼ぶことのできる人々と知り合うことが出来ました。それまでの生活ではなかったことです。4年間の怠惰な生活を経てこの地へ来たのですが、90kgだった体重が78kgになり、思わぬ副産物に喜んでいます。

北九州市の保護者や子どもたちに伝えたいことは。

二つあります。一つは、東日本大震災を忘れないでください。最近では被災地の報道が少なくなりましたが、復興は遅々として進んでいません。少しでも多く被災地のことを思いだしし、自分に出来ることは何か、あるいは自分がするべきことは何かを考えてほしいと願っています。

もう一つは、自戒の念を込めてですが、いま日本では自分さえよければいい、あるいは少なくてはという考えが広がっているように思えます。子どもたちには他人の喜びを自分の喜びとして感じられるような人になってもらいたいと言いたいですし、親御さんにはお子さんをそんな人に育てていただきたいと願います。日本を再生しなければという声が大きい今、最初の第一歩はそれだと思います。

今回の活動やロシナンテスなどの活動を踏まえ、大嶋さんの将来の夢は何ですか。

ここ一被災地では被災された方々が助け合いながら生活しています。「人」人が、今までより少し（歩だけ）相手のことを慮って考えて行動し、今までより少し（歩だけ）自己の主張を遠慮して他者の声に耳を傾けていくように見えます。そうすることにより、この未曾有の被害と悲しみを乗り越えようとしているのでしょう。人は一人で生きているのではなく、必ず社会の中で生きていかなければなりません。その小さな単位が、家族であり地域であると思います。少しだけ相手を慮って、少しだけ謙虚になれば、家族の絆と地域の絆が強いものになるのではないでしょうか。そんなことが日本中に広がればいいなあと思っています。

岩沼市玉浦地区のがれき撤去作業

「関上復興だより」のメンバーと

寺子屋関上の開校日　小学生に勉強を教える大嶋さん

復興した田んぼで稲刈りをする大嶋さん

平成24年度 第6回 ワーク・ライフ・バランス表彰 ～働き方を変えると生活が変わる!～

北九州市では、やりがいや充実感を感じながら働き、子育てや趣味の時間、地域との関わりを持てる、そんな調和の取れた生活を推進・実践している企業・団体・個人を毎年度表彰しています。

平成24年度は、永犬丸小学校で父親の会メンバーとして活躍されている杉井隆造さんが表彰されました。皆さんもぜひこの機会に仕事も家庭も大切にするワーク・ライフ・バランスについて考えてみてはいかがでしょうか?

市長賞（個人部門）　杉井　隆造さん

「学校のPTAはほとんどがお母さん方で運営されています。しかし父の会はPTAとは独立した、父親だけで運営されている、ある意味「気兼ねの無い集まり」です。そこで知り合った方々は、子どもとの触れ合い、野外活動に関心のある面白い人ばかり。職業が様々なので、専門分野や得意技も様々です。

学校を中心に子ども向けの活動をしていると、自然に市民センター、学童保育クラブ、PTA、町づくり協議会といった地域団体と接することになります。その結果、日ごろ知り合えない方々とも知り合いになりました。そしてこの活動の最大の報酬は、子どもたちの笑顔と、それを見て喜ぶ親御さん方の満足げな表情です。こういう機会に恵まれた私は幸せ者で、末永く後任者に伝えていきたく思います」

平成24年11月21日（水）10:00～12:00　「ウェルとばた」にて
北九州市特別支援学校PTA連合会研修大会が行われました。

今回、この研修大会の中での小倉南特別支援学校の発表についてご紹介します。

被災地の特別支援学校の子どもたちやその家族はどうしているのだろうという思いから、同じ鉄の町として交流のある釜石市の特別支援学校にアンケートをお願いし、その結果を広報誌にまとめています。ここではその中の一部を紹介します。

Q　現在のお子さんの様子は、震災前と比べて変わったことなどありますか。

A
- 海に対する思いが恐いものと変わり、どこかに連れて行く度に、ここは大丈夫?と聞いてくる。
- 震災のニュース等を視ると顔がこわばる。
- 地震になると恐がる、少しの揺れでも母親にくっついてくる。
- 家から外を見て、町がむちゃくちゃとつぶやく。
- 自分で自分のことを出来る事が多くなった。
- 通学が大変になった。親の学校への送迎も大変。給食も必要。
- 通学の環境が変わりストレスがたまってきているように感じる。
- どこに行くにも置いていかれるのと思うのか、離れなくなった。
- 現在仮設住宅にいるのだが、休日でも家にいるのが嫌で日中一時支援を使っている。
- こだわりが強くなった気がする。

解説　変わりないという結果も多く見られました。

Q　保護者（特に母親）の方の大変なこと、困っていることなどありますか。

A　料理が苦手でのアレルギー用の弁当を作るのが一番困る。住む予定の家がなくなりアパートも出なければならずで、母を引き取り同居するために土地、家の購入の為毎日バタバタしている最中。震災後すぐ父がこくなりショックで体調が悪く歩くのもまどろっこしくなってしまった母との同居が始まったらどうなるか。

解説　やはり精神的な疲れや将来への不安などを抱えている、という回答が多く寄せられました。また狭い仮設住宅での暮らしで、周りに気を使っている方が多いようです。身体に障がいを持つ子どもの場合、仮設住宅の設備の使いづらさ等の問題もあるようです。

今回ご紹介いただいた
釜石祥雲（かまいし しょううん）支援学校と釜石市について紹介します。

※祥雲支援学校HPより

岩手県釜石市は、岩手県の南東部、陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、東は太平洋に、西は遠野市と住田町に、南は大船渡市に、北は大槌町にそれぞれ接しています。

気候は、四季を通じて温暖で、わが国近代製鉄発祥の地として、また、三陸漁場の中心港として、「鉄と魚のまち」として発展してきました。釜石市の人口は39,578名。

釜石市内にある祥雲支援学校は県立の特別支援学校のひとつです。

〈児童生徒数〉
- ●小学部7学級21名　中学部3学級6名
  高等部4学級25名
- ●しゃくなげ分教室
  （国立病院機構釜石病院重症心身障がい児者病棟に入院されている方への訪問教育）
  中学部2名　高等部10名　　合計64名

第57回 九州ブロックPTA研究大会
佐賀大会を振り返って
～語りあい　認めあい　育てあい　愛ことばは「子育ていちばん」～

平成24年10月27日・28日、佐賀県で第57回九州ブロックPTA研究大会が開催された。本市からは、大会1日目において、第5分科会（人権尊重・特別支援教育）武雄市文化会館で志井小学校（坂井学PTA会長・児童数528人）が「子ども一人一人の違いを認め、子どもの個性を大事にするPTA活動」、第6分科会（健康安全）東与賀文化ホールで北九州市PTA協議会（藤田武男副会長・中学校部会長）が「中学校給食と連携したPTAとしての取り組みと課題」というテーマで発表した。

また、大会2日目の全体会（式典・記念講演）は、九州ブロックPTA研究大会で史上初の試みとして、佐賀市文化会館・唐津市文化体育館・武雄市文化会館の三会場を映像で結ぶ三元中継で開催された。来年度の開催県である沖縄県のキャラバン隊により、各分科会場や全体会場において笛や太鼓による沖縄大会に向けてのPRも行われた。

志井小学校　（第5分科会・人権尊重・特別支援教育）

子ども一人一人の違いを認め、子どもの個性を大事にするPTA活動として「子ども一人ひとりの特別支援学級の保護者の意識を変えたり、障害のある子どもを理解し、支援したりする為にPTAとして何ができるのか?」について発表を行った。

1　特別支援学級に関わる、具体的なPTAの実践

(1)　特別支援学級開設時における啓発活動

特別支援学級を開設する際に、学校と協力しながら、保護者向けに授業参観の後に全体的な研修を行った。約200名の保護者が参加し、「情緒学級とはどういうものなのか。どのように接していけばよいのか」などを学んでもらう機会を設けた。

(2)　特別支援学級開設時以降の啓発活動

入学時説明会において、特別支援学級担任から毎年、新一年生の保護者に対して、特別支援学級についての説明を行っているため、開設時以降、保護者全体に対しての研修会は実施していないのが現状。新しく本校に関わる保護者の方も特別支援学級のことを知ることになった。

(3)　PTA活動における保護者の変化

①　**開設当初**

特別支援学級の生徒たちは、校区外から通っている（保護者が送り迎えをしている）ケースがほとんどです。保護者の方々もPTA活動という点では制約（意識・時間）があり、PTA執行部からの積極的なアプローチは行っていませんでした。その為、委員会選出の際も特別支援学級からは選出しないことになっていた。

②　**特別支援学級の保護者の意識向上**

そんな中、学級担任やPTA役員からの働きかけを行い、少しずつPTA活動について知ってもらう機会を作った。また、保護者や地域の方々が、スクールヘルパーとして登録し、学校全体のサポートをしてくれた。スクールヘルパーには、特別支援学級の子ども達が分かるように写真を貼って顔を覚えてもらい、その子の特徴を説明して子ども達に対応できるように工夫した。

「大きな声を出さない。追いかけない。説明すれば理解できる。」など、一人一人の特徴に合わせた対処法を覚えることで、スムーズにサポートができるようになった。

③　**特別支援学級の保護者との関わり　その1**

開設当初は、特別支援学級の保護者もPTA活動に対して消極的であったが、「わくわくカーニバル」などでの子ども達の交流、運動会や遠足などの学校行事への参加が引き金になったのか、少しずつPTA活動に参加するようになった。「わくわくカーニバル」へのお手伝いも、「できる範囲ですがお手伝いしますよ。」と声をかけてもらえるようになった。

④　**特別支援学級の保護者との関わり　その2**

少しずつPTA活動との関わりが深まる中、特別支援学級の保護者の方から「委員会活動の一部をさせてもらえないか。」という提案をもらい、人権委員会が行っていたベルマークの回収と集計を協力してもらう。校区外の保護者が多く、地域から選出される母親委員会の交通安全旗持ち係や、学校に集まって何かを行うその他の委員会活動は難しいのが現状であったため、自宅など個人で作業を進めることができるベルマークの作業をお願いした。

実際、ベルマークの集計は、特別支援学級の保護者の方も行うことができ、PTA活動への参加の定着化に一役買う事になった。

2　成果と今後の課題

(1)　成果

保護者については、全体研修の実施や学校行事へ交流参加、スクールヘルパーなどの活動を通して、子どもの行動を個性として捉えることができるようになった。特に子ども達は、交流により思いやりや優しさが芽生えてきたように感じる。

(2)　今後の課題

PTA活動において「子ども一人一人に対して」という視点からは、まだ十分な活動が行えていないのではないかと思う。始めの一歩が踏み出せたところ。

今後の課題としては、

①　**継続的な特別支援を要する児童に関する啓発活動**

特別支援学級だけでなく、特別な支援を要する児童に対する知識不足、認識不足をいかに無くしていくことは、人権問題として、PTAとして取り組むべき問題。

②　**学校教育でできないもの、超えたものをPTAとしてどのように取り組むのか?**

「子ども一人一人に対しての関わり」という視点で学校教育が充実する為にサポートするのがPTA活動だと思う。

そのあるには、いかに特別支援学級の保護者、普通学級の保護者を巻き込んでいくのか考える必要がある。特別支援学級の保護者と通常学級の保護者が、「子ども一人一人の違いを認め、子どもの個性を大事にする」という視点から、情報交換・交流のできる場としてPTA活動を取り組む必要がある。

特別支援教育をより推進していくためには、保護者の特別支援教育に対する正しい知識や意識がとても必要。一緒に教育できる、支援できる体制作りが、学校・地域・PTAが一緒になって行えるように今後も取り組んでいきたい。

北九州市PTA協議会 中学校部会　（第6分科会・健康安全）

PTAの健康に関する取り組みとして、平成19年以降の中学生を取り巻く食生活の状況とそれを改善するための学校給食の導入や「お弁当の日」、「米作り体験や地域とのふれあい」など各学校における食育推進の取り組みについて、北九州市PTA協議会中学校部会が発表を行った。

1　中学生の食育に関する課題

【平成19年7月、市民及び全中学生の保護者・生徒・教員を対象とした食育・中学校給食に関する調査より】

○朝食を「毎日食べる」者の割合は約8割にとどまっている。

○主食（ごはん・食パン）、主菜（肉、魚、卵、大豆製品）、副菜（野菜、いも、海藻）について、栄養バランスへの配慮が十分とはいえない。

○就寝時刻をみると、夜型の生活が定着している者が多く見られ、睡眠時間も7時間未満の者が約2割いる（部活動等の「ない日」）状況である。

○朝食と睡眠時間との関連においては、朝食を欠食する者の方が、就寝時刻が遅い上に睡眠時間も短く、夜型の生活リズムで睡眠時間が不十分など朝食の欠食の要因の一つとなっている。

○「疲れやすい」や「体がだるい」と感じている者が約7割、「イライラする」と感じている者も約5割となっており、体の不調や情緒面での不安を訴える生徒が多く見られ、朝食と体調の関連においては、朝食を欠食する者の方が、体調面で不調となっており、食生活の乱れが体調へも影響している。

2　中学校給食の導入

北九州市の中学生の食生活は、平成19年度のアンケートから、食に関する意識や知識（食品の選び方や調理方法）の習得度が十分ではなく、食育基本法で指摘されているような食生活の乱れが見られる状況。このため、中学校における食育推進に関する施策の一つとして、学校給食を、「生きた教材」として活用することとし、平成21年度より段階的に牛乳だけ提供する「ミルク方式」から主食・副食を提供する「完全給食」へ変更。現在では全ての中学校で完全給食に移行している。

3　学校・PTAの取り組み

食育の推進にあたって、家庭と学校が連携し、それぞれの役割に応じた取り組みを行っている。

<学校の取り組み>

▼食育の啓発など　（富野中学校の例）

毎月19日の「食育の日」に合わせて、バランスのとれた食事や早寝・早起き・朝ごはんなどの食育に関する話題や学校給食に関する情報などを盛り込んだ「食育通信」を発行。

▼お弁当の日　（上津役中学校・浅川中学校などの例）

お弁当作りを通して、家族とのコミュニケーションを図るとともに、食材・自然、家族への感謝する気持ちを育成するため、生徒が弁当を作って登校する「お弁当の日」を実施。

▼米作り体験と地域とのふれあい　（八児中学校の例）

八児中学校では、「土に触れ」「人に触れ」「心を耕す」を理念に、生徒会が中心となって、毎年自分達で育てたお米でもちつきを行い、ついたおもちを地域に住んでいる一人暮らしの年長者に配る活動を実施。

<PTAの取り組み>

家庭は、一人ひとりが日々、健全な食生活を実践する場であり、食に関する知識や調理技能、食事マナーなどを習得し、食を楽しむ心や食に対する感謝の気持ちを育むなど、食育の中心的な役割を担っている。

PTAとしての取り組みとしては、

①　**早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣を考え直すためにPTA新聞などでの啓発**

②　**家庭教育学級での食育講座の開催**

③　**米作りやもちつき等の食や自然への感謝の心を育てるイベントへのスタッフ協力**

など

4　今後の取り組みに向けて

北九州市中学校PTA部会としては、

○　朝食の摂取や栄養バランスなど子ども達の生活習慣について、関心を持ってもらうような情報

○　親子のコミュニケーションを図り、豊かな食文化を形成するために、子どもが一人で食事をとる「孤食」などをできる限りさせない取り組みに関する情報

○市役所などと協力し、地域の農林水産物や食文化などふるさとへの愛着心を育む地産池消の情報

○学校と連携した単位PTAの取り組み

などについて、幅広く情報収集を行うとともに、好事例などの取り組みを情報発信し、市内中学校PTAでの食育を支援していく。

北九P協しんぶん

発行
北九州市PTA協議会
北九州市小倉北区大門一丁目6番43号
(北九州市立生涯学習総合センター2階)
☎(093)581−7268
発行責任者
会長 伊藤 一義

ユネスコスクール認定
尾倉(おぐら)中学校

正門から見た校舎

平成24年7月、尾倉中学校(八幡東区・太田祐司校長)が北九州市の小・中学校で初めて、ユネスコスクールへの加盟が承認されました。

ユネスコスクールとは、世界中の学校と生徒・教師で交流し、情報体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対応できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指し、昭和28年に発足している。

今回は、そのユネスコスクールに認定された尾倉中学校の取り組みをご紹介します。

ユネスコスクール認定に至った経緯

本校では、平成15年度に生徒会が学校周辺の清掃活動を始め、翌年、古紙や空き缶の回収、平成19年度には学校近くの商業施設でペットボトルのキャップ回収箱を見つけたのをきっかけに校内でキャップ回収を始めました。そこからリサイクル活動の種類を広げ、今では専門委員会ごとに仕事を分担して工夫を凝らしながら、環境美化活動を進めています。このような教師主導ではなく、生徒たちの気づきとボランティア精神から始まった取組により、平成20年度から平成22年度までの3年間、北九州市環境教育推進指定校の指定を受け、その取組は継続されました。また、平成23年度からは、研究の視点をESD(持続発展教育)へと広げ、環境教育を中心に人権教育や防災安全教育、食育なども研究の視点として総合的に捉え、計画的、継続的な実践を通して、未来を担う生徒の育成に取り組んできました。

ユネスコスクール認定によるメリットなど

◆世界のユネスコスクールの活動情報を入手可能
◆世界のユネスコスクールと交流する機会の増加
◆世界の教育事情、国連機関の活動の把握
◆ユネスコスクールHPを通じた情報交換
◆ワークショップ、研修会への参加　など

校内清掃もていねいです!

生徒会活動での環境の取組

生徒の呼びかけから始まった地域清掃は、平成17年度からは生徒会美化委員会の取組として、毎週火曜日の朝、学校周辺の清掃活動を行っています。誰もが自分ができる時に参加できるボランティア活動なので、登校途中そのまま清掃に加わる生徒もたくさんいます。平成19年度から生徒会は「ペットボトルのキャップで世界の子どもにワクチンを」の取組を始めました。キャップ回収の取組を通して、ワクチンがないために命を落とす子どもが世界にたくさんいること、そして自分が集めるキャップが人の命を救うことにつながることを生徒会が全校生徒に発信してきました。ペットボトルキャップ約100kgが、20人分のポリオワクチンになります。

その他にも、生徒会の各専門委員会が工夫を凝らし、回収強化月間を設けるなどして、ペットボトルキャップ、空き缶、古紙、書き損じはがき、プルタブ、ベルマークの回収に取り組んでいます。いつでも様々なものを回収できるように、昇降口や各教室に回収箱や回収袋を設置し、回収を訴えるポスターも、学校の至る所に掲示されています。

▶朝清掃をする生徒

◀古紙回収業者へ

皿倉清掃登山

毎年6月に第1学年は、小さい頃から慣れ親しんでいる皿倉山に登り、登山道や山頂付近、ケーブルカー駅付近のゴミ拾いを行っています。人目につかない所、駐車場など人の集まるところにタバコの吸い殻やゴミが非常に多く放置されている状況があります。地域の自然を守っていく意識を育むための取組です。

▶皿倉清掃登山

地域清掃

9月には第2・3学年は学校の敷地内を、そして第1学年は学校周辺の清掃を行っています。地域清掃を行うことで、生徒はゴミの種類を調べ、そこから環境を考える取組へとつながっています。

▶地域清掃

環境国際交流会

一昨年から、廃棄物の処理法について研修をしに来日したJICA研修員の方々(大学教授、技術職、公務員等)が、本校を訪れ、環境問題について全校生徒と交流しています。昨年は6ヶ国から7名の研修員の方が来校しました。交流会では、本校のこれまでの取組を紹介し、様々な意見をいただきました。また、各国の環境に対する取組を紹介していただくことができました。また、昨年は、韓国のトンヨン市から中学生、高校生約28名が来校しました。諸外国と本校の環境問題に関する取組を交流することを通して、環境の取組に対しての重要性を認識したり、意識を高めたりすることができます。

▶JICA研修員との交流会

▶トンヨンの中・高生との交流

地球の未来のために

尾倉中学校　校長　太田祐司

平成15年度に生徒会が学校周辺の清掃活動を始めたことから、学校全体の環境美化への意識が高まり、それから毎年、清掃美化活動は少しずつ変化し引き継がれてきました。「私たちが地球の未来のためにできること」を考え、地域清掃や古紙回収、ペットボトルキャップの回収など身近にできることから実践してきました。今後は、さらに世界平和や人権、防災、食などについて考えを広げ、実践していきたいと考えています。

information_no.1

～みんなで考え、いじめをなくそう～

「いじめ防止標語コンテスト」を募集中!!

北九州市PTA協議会では、AIU保険会社との協賛事業として、「いじめ防止標語コンテスト」を募集します。

この活動は、児童や生徒がいじめ防止や根絶に対する標語を考えることによって、いじめについてもっと真剣に考え、いじめを「しない」・「させない」・「許さない」という強い意識と行動を育むために実施します。ぜひ学校や家庭において、いじめ防止を考えるための、きっかけ作りとして、児童・生徒へ参加を働きかけるようお願いします。

○テーマ　**いじめ防止及び根絶に関する標語**

○応募規定　※文字数の規定はありません。
※応募は、児童・生徒1名につき1作品
※応募作品は、未発表の日本語原稿に限ります。

○応募資格　北九州市立小学校・中学校・特別支援学校(小・中学部)児童・生徒

○締め切り　**平成25年1月11日(金) 必着**

○入賞　最優秀賞、優秀賞、推薦賞
(最優秀賞は東京での表彰式に参加)

○提出先　〒804−0061 北九州市戸畑区中本町7−20
戸畑生涯学習センター2階
北九州市PTA協議会事務局

平成23年度作品

小 学生の部
最優秀賞　見て見ぬふりの自分に勝とう　折尾西小 4年　松崎　陸
優秀賞　かなしいよ もうしないでね おねがいね　曽根東小 1年　佐藤　愛姫
いたずらと いじめはちがうよ やめようね　折尾東小 3年　片平　滉人

中 学生の部
最優秀賞　後ろ指 さしてる君も さされてる　石峯中 3年　宮崎 恵輔
優秀賞　一言で 心のひびが 深くなる　南曽根中 1年　山本 龍之介
優しさは ロボットじゃできない プログラム　熊西中 2年　須崎　智朗

information_no.2　P協主催

第4回小学生親睦駅伝参加者募集

平成25年 2月24日(日)
8:30～12:30 ※小雨決行

ふるって ご参加ください!

戸畑区金毘羅池外周コース (総合体育館前)

○種目　・男子の部(3年～6年)　5区間(※女子の出場可)
・女子の部(3年～6年)　5区間
・低学年の部(1年～3年)5区間
※各部とも5人1チームです。
○参加資格　北九州市内の小学生
○参加料　無料(会場へは各自で)
○表彰　1位～6位まで　(※区間賞はありません)
○申込方法　申込書に必要事項を記入のうえ、平成25年2月8日(金)までに下記へお申し込みください。
○申し込み先(お問い合わせ先)　〒804-0061 北九州市戸畑区中本町7−20
戸畑生涯学習総合センター2階
北九州市PTA協議会
TEL.581−7268　FAX.581−9198

information_no.3

PTAの産業観光研修を支援します!

～市内の工場見学で北九州市の良さを再発見しませんか～

北九州商工会議所は、賑わいのある街づくりを目的に北九州市や観光協会と協力し、平成23年度から工場見学を中心とした「産業観光事業」を推進しています。

工業都市として発展した北九州市の地域資源である工場群を観光に活かして、市内外から観光客を集め、街のPRと地域経済の振興を進めていく試みです。特に、「我が街の良さをPRするには、市民がまずその良さを知ろう」との観点から、市内PTAの皆様に**工場見学先の情報提供や予約などの支援活動をしています。**

PTAで産業観光のご希望やご相談がありましたら、以下の問い合わせ先まで。

○工場見学の条件
小学5年生(一部は中学生)以上の10人以上のグループで、新日鐵住金(株)八幡製鐵所、(株)安川電機、TOTO(株)小倉第一工場・第二工場、シャボン玉石けん(株)など工場見学に協力している企業を見学できます。但し、土日祝日は見学できません。(事前予約制で参加者名簿の提出が必要です)

○問い合わせ先
北九州商工会議所　産業観光推進室　電話　541−0186

無添加石けんのパイオニア「シャボン玉石けん」

ユニフォームのリサイクル:反毛工場「エス・イー・ピー九州事業所」

24時間様々な危険からお子様を補償する

北九州市PTA協議会 推薦

小・中学生総合保障制度のご案内

こども総合保険　自転車総合保険

本制度の特徴
❶ PTAを窓口とした団体割引(適用割引約26%／平成24年実績)により掛金が割安です。
❷「傷害(ケガ)補償」・「個人賠償責任補償」・「育英費用補償」の3つの補償でバックアップ!!
❸ 医師・看護師・ヘルスカウンセラー等による健康・医療相談が24時間通話料無料で受けられます。
❹ セカンドオピニオン アレンジサービスがついています。❺ 児童・生徒が病気をされた場合の補償プランも選べます。
❻ ご要望におこたえして、自転車事故増額補償オプションをご用意しました。

北九州市PTA協議会 小・中学生総合保障制度
お問合せ先・引受保険会社

AIU保険会社 エイアイユー インシュアランスカンパニー 北九州支店(小・中学生総合保障制度係)
[住　所]〒802-0004 小倉北区鍛冶町1-10-10 大同生命ビル10F
[電話番号]093-511-3821 [受付時間]午前9時～午後5時まで(土・日・祝日・年末年始を除く)

・本制度の補償期間は平成24年5月1日(午前0時)～平成25年5月1日(午後4時)までとなっております。補償期間の中途からのご加入希望の場合には上記お問合せ先までお問合せ下さい。
・この広告は制度の概要を説明したものです。詳細につきましては、4月上旬に配布されましたパンフレットをご覧いただくか、上記お問合せ先までお問合せ下さい。

A-000319　2013-04